



@心の支援課

長野県教育委員会事務局 心の支援課
長野市大字南長野字幅下692-2
電話番号：026-235-7436

令和7年度 不登校児童生徒等の学びの継続支援 に関する懇談会 第2回



座長 荒井 英治郎 先生

信州大学教職支援センター准教授

第1回 令和7年6月18日(水) オンライン開催
第2回 令和7年10月15日(水) オンライン開催
第3回 令和8年1月29日(木) オンライン開催予定

構成員

近藤 守

市町村教育委員会
連絡協議会会長

酒井 秀樹

上田市教育委員会
教育長

小松 亨

塩尻市教育委員会
教育支援センター主任

村上 陽一

信州フリースクール居場所等
運営者連絡協議会代表

成澤 乃彩

東京学芸大学院生

高坂 由美子

塩尻市立
塩尻西部中学校長

田中 和恵

箕輪町立
箕輪中部小学校長

甘利 由美恵

不登校児を応援する保護者の会
チャレンジP-Smile顧問

本懇談会は、不登校の児童生徒が自分らしく学び続けられる支援充実を目的に、令和3年度から開催。多分野の有識者が現場の声を踏まえ、教育支援センター機能拡充、アウトリーチ支援、オンライン学習等、家庭・学校・地域が連携し、子どもの学びを尊重する仕組みづくりを進める重要な場となっています。懇談会の成果は、フリースクール連携など多様な学びを議論し、その成果は「はばたきvol.1～3」にまとめられています。



1. 長野県の取組報告

第2回懇談会(10.15)の主な議題と協議内容

校内教育支援センター等児童生徒の居場所づくりの工夫(心の支援課)
信州型フリースクール認証制度等の取組状況の報告(次世代サポート課)
不登校支援機関連携推進員の紹介

2. 意見交換(主な論点)

論点①: 校内教育支援センターの現状と課題

田中委員: 低学年中心の利用の現状、学習支援への要望対応と課題

高坂委員: 多様な利用形態と理念の重要性、支援員配置と研修の必要性

酒井委員: 「時間・空間・人間」で寄り添う環境整備、校内支援センターの利用状況と効果

甘利委員: 保護者が話せる場の必要性、経験者による支援の価値

成澤委員: ノートによる情報共有、支援会議に支援員が参加する好事例

論点②: 支援者間の連携のあり方

村上委員: フェスや保護者イベントの成果、諏訪地域での連携の取り組み事例

小松委員: 支援員常駐の重要性、研修・情報交換の場の必要性

近藤委員: 機関連携の広がりや公民館等との協働、支援会議の整理と特別支援との関連

意見交換と議論の流れ

1. 校内教育支援センターの現状と課題

- 校内教育支援センターの現状報告をもとに、小学校のセンターは低学年の利用が多く、学習支援よりも「安心できる場」としての役割が中心であることが共有されました。
- 設置場所の改善や学習スペースの整備が進められていますが、子どもが自分らしく学びをに向かえるよう支えることや、支援の人員不足と専門性の確保も課題とされました。
- 保護者が学校に足を運ぶ心理的負担を軽減する工夫や、保護者同士のつながりを支援する仕組みの必要性も指摘されました。さらに、学校外での取り組みとして、地域の支援者が家庭訪問や遊びを通じて子どもと関わり、社会との接点を生み出す事例が紹介されました。

2. 支援者間の連携のあり方

- 学校、教育支援センター、フリースクールなど多様な支援の場をつなぐコーディネーターの重要性が強調され、学校外の職員が支援会議を主導する事例も報告されました。
- 情報共有の仕組みはあるものの、十分に活用されていない現状が課題として挙げられ、地域活動やSNSを活用した情報発信が効果を上げている事例も紹介されました。
- 訪問型支援や地域交流が学校と地域支援者との関係を柔らかくし、連携を強化するうえで重要であるとの意見が出されました。



3. 今後の方向性と提案

- 支援は学校復帰だけを目指すのではなく、社会的自立を視野に入れた支援が必要であるという認識があらためて確かめられ、子どもに応じて、時間・空間・人の柔軟な組み合わせを整えることが大切であり、学校内外の居場所づくりや民間との協力も不可欠とされました。
- さらに、多様な学びに関する理解を進め、いろいろな場所での学びが認められるという認識を広げることが、子どもを追い詰めないために重要であると指摘されました。
- 支援者間の情報共有や研修の工夫を通じて、学校や支援機関へ負担をかけることなく質を高める取り組みの必要性も確認されました。

懇談のまとめ（荒井 英治郎 座長）

- 子どもの心理的安全性を尊重し、学びの選択肢を広げる
- 居場所と学びの環境整備に向けた情報共有と人材課題
- 学校とフリースクールの連携強化による多様な学びの推進



不登校支援には、校内外の居場所づくりと多様な学びの選択肢を整えることが重要です。人材確保や情報共有の仕組みを強化し、学校・地域・民間が連携して子どもの心理的安全性を保障することが求められます。

また、支援員の安定的な配置や研修機会の充実、保護者が安心して相談できる場の確保も不可欠です。こうした取り組みを通じて、子どもが自分に合った学び方を選び、安心して成長できる環境を整えることが、今後の教育現場における大きな課題であり方向性と考えられます。

下記HPIに、令和3年度から今回までの懇談会の要旨や資料を詳しく掲載しています。不登校の現状や支援の方向性、県の支援体制づくりに活かされた議論を見渡せます。いじめ問題や不登校支援に関する情報も多数掲載していますのでご覧ください。



不登校児童生徒等の学びの継続支援に関する懇談会／長野県教育委員会

<https://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/kokoro/shido/ijime/manabinokeizokushienn.html>